

# 2024年産 大豆「シュレイ」栽培こよみ

アルプス農業協同組合  
アルプス農協管内農業技術者協議会

【目標】 圃地化率:80%以上 収量:200kg/10a 品質:1~3等比率と大粒比率の向上 「とやまGAP」の実施及び生産記録簿記帳100%

月別	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月
旬別			下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	

**主な作業**

基幹排水  
H2O

施肥  
耕起・整地  
播種  
除草剤散布

1回目培土  
播種20~25日後  
(本葉2~3葉期)

2回目培土  
播種30~35日後  
(本葉4~5葉期)

防除(随時)  
ウコンノメイガ

基本防除(1回目)

基本防除(2回目)

雑草の抜き取り

収穫

次年度作付圃場の準備

栽培のポイント

- ①排水対策を徹底
- ★②石灰質資材や基肥の適量施用
- ★③種子消毒の実施
- ★④適正な播種作業で苗立本数を確保
- ★⑤雑草防除(除草剤散布)
- ⑥晴れ間を逃さず2回培土の実施
- ★⑦開花期~9月上旬は早めの畦間かん水
- ★⑧病害虫防除の徹底
- ⑨圃場のほとんどの莢が褐色になった頃を目安に刈取り開始

英先熟が発生した生産者は★の対策を徹底しましょう!

畦間かん水  
開花期以降晴天が続いたら実施

ハスモンヨトウ

葉巻とウコンノメイガ幼虫

イチモンジカメムシ

紫斑病

適期収穫で、しわ粒や汚損粒にしない圃場のほとんどの莢が褐色になった頃を目安に収穫開始

黄葉期

落葉・成熟期

### ① 早期排水対策

**地表排水が最も重要**

排水性は合わせて基幹排水溝を設置

排水口は確実に連結し、深く掘り下げる

畦間かん水時には開ける

排水口はしっかり止める

ほ場の角、各排水溝は確実に連結

排水口は確実に連結し、深く掘り下げる

#### 排水対策の効果

- ・ 砕土率が上がり発芽・苗立ちが良くなる
- ・ 除草剤の効果が向上
- ・ 根量が増え、根粒菌も増える
- ・ 病害(茎疫病、黒根腐病)の発生抑制

### ② 土づくりと施肥

★地力の高いほ場では過剰な施肥を避ける。

- 大豆栽培に適するpH6.0~6.5を目標に必ず石灰質資材を施用する。
- 地力の低下を補うため、発酵鶏ふんを施用する。

資材名等	施肥量
貝化石(粒)	150~200kg
発酵ケイフン	100~200kg
BB基肥084	普通田 20kg
(N:P:K = 10:18:24)	砂壤土、低地力田 30kg
麦跡	上記 + 硫酸10kg

### ③ 種子消毒(病害虫防除の徹底)

対象病害虫	使用薬剤	処理方法
フタスジヒメハムシ アブラムシ類 タネバエ ネキリムシ類 茎疫病 黒根腐病 紫斑病	クルーザーMAXX	塗沫処理 乾燥種子 1kg当たり 原液8mL

### ④ 適正な播種作業で、苗立本数を確保

★極端に早い播種を避ける。

- 一連の作業は圃場が乾いた状態で、好天日に一気にやる。
- ※作業手順(施肥同時播種の場合)

耕起 ▶ 砕土・整地 ▶ 播種 ▶ 作溝

●適正栽植本数の確保  
目皿とスプロケットの組合せを確認し、適正播種量を入れる。

★苗立数を確保する。

【播種量の目安】 条間80cm「シュレイ」大粒種子(百粒重35.7gの場合)

目皿	播種時期	播種量目安(kg/10a)	目標栽植本数(本/10a)	スプロケット	
				目皿側	車輪側
B-3	5月6半旬~6月上旬	4.8~6.0	12,000~15,000	10~11	11
				11	13
	6月中旬~(麦跡等)	6.0~7.1	15,000~18,000	10	13~14
				9	14

※播種精度95%苗立数90%の場合

### ⑤ 雑草防除(除草剤散布)

農業使用基準を守りましょう。

散布時期	対象雑草	薬剤名	10a当たり散布量
播種後出芽前	一年生雑草	サターンバアロ粒剤	4~6kg
		サターンバアロ乳剤	600~1,000mL (水70~100Lで希釈)
	一年生雑草 (ツクサ科、カヤツリグサ科、キク科・アブラナ科を除く)	トレファノサイド粒剤2.5	4~6kg
		トレファノサイド乳剤	200~300mL (水100Lで希釈)
一年生雑草	ラクサー乳剤	400~800mL (水100Lで希釈)	
	ブロールプラス乳剤	400~600mL (水100Lで希釈)	
雑草生育期 (イネ科雑草の3~10葉期) (収穫30日前まで)	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	ポルトフロアブル	200~300mL (水100Lで希釈)
大豆2葉期~開花期前 (収穫45日前まで)	一年生雑草 (イネ科を除く)	大豆バサグラン液剤	100~150mL (水100Lで希釈)
本葉3葉期以降 雑草生育期(草丈15cm以下) 雑草茎葉兼土壌散布 (畦間・株間処理)(収穫30日前まで)	一年生雑草	ロックス	100~200g (水70~150Lで希釈)
大豆5葉期以降雑草生育期 (畦間・株間処理)(収穫28日前まで)	一年生雑草	バスタ液剤	300~500mL (水100~150Lで希釈)
雑草生育期 (畦間処理)(収穫28日前まで)	一年生雑草	ザクサ液剤	300~500mL (水100~150Lで希釈)

※ロックス、バスタ液剤、ザクサ液剤は、大豆にかからないように注意して下さい。

### ⑥ 的確な培土

●晴れ間を逃さず確実に2回の培土を行い、根域を拡大し、湿害を回避する。

1回目: 播種20~25日後  
(本葉2~3葉期)  
子葉が隠れる程度

2回目: 播種30~35日後  
(本葉4~5葉期)  
初生葉が隠れる程度

~培土は株元に土をしっかりかけましょう~

良い培土

悪い培土

### ⑦ 畦間かん水(開花期~9月上旬)

★早めの畦間かん水により干ばつを回避する。

- 開花期から9月上旬、3日間以上晴天が続いた場合、土壌の乾き具合に応じて適時かん水する。
- 圃場全体に水が行き届いたら水口を止め、速やかに排水する。

開花期

畦間かん水

### ⑧ 病害虫防除

農業使用基準を守りましょう。

★有効薬剤を適期に適正量を確実に散布する。

防除時期	対象病害虫	薬剤名	10a当たり散布量
基本防除	8月上旬	紫斑病、茎疫病	Zボルトー粉剤DL 3kg
		カメムシ類	スミチオン粉剤3DL 4kg
基本防除	8月下旬	紫斑病	トライトレボソ粉剤DL 3~4kg
		カメムシ類	ダントツフロアブル 1000倍 150L
基本防除	8月上旬	紫斑病	ダントツフロアブル 2500倍 150L
		カメムシ類	ダントツフロアブル 1000倍 150L
基本防除	8月下旬	紫斑病	アミスタートレボソSE 1000倍 150L
		カメムシ類	アミスタートレボソSE 1000倍 150L
随時防除	7月下旬~8月上旬	ウコンノメイガ	ダントツH粉剤DL 4kg
		カメムシ類	プレバソフロアブル5 <sup>1)</sup> 4000倍 150L
随時防除	8月中旬~9月中旬	ハスモンヨトウ	トレボソ粉剤DL 4kg
		ハスモンヨトウ	トレボソ乳剤 1000倍 150L

1) プレバソフロアブル5を使用される場合は展着剤を加用して下さい。

### ⑨ 収穫作業

【刈取り適期の目安】

莢色: 緑 → 黄 → 褐色

圃場のほとんどの莢が褐色になった頃を目安に収穫開始

◎汚損粒は絶対に出さない。

- 青立ち株や大きな雑草は事前に抜き取っておく。
- 露がなくなってから刈取る(午前10時~午後4時まで)。
- 刈取り高さは地際から10cm以上とし、土を掻き込まない。

### ⑩ 次年度大豆作付圃場の準備

- 額縁排水溝の設置や心土破碎を行う。
- 緑肥作物の作付により地力増進を図る。
- 連作を避け、圃地化を進める。

※安全安心な大豆を生産・販売するために、『生産記録簿』は全て記入して、各営農経済センターへ提出して下さい。